

【R5年頭訓示】

R5-1-12

矢野弘典

果敢にチャレンジしよう

明けましておめでとうございます。

年末年始はご家族と共にゆっくりされたことと思います。お陰様で私もお屠蘇を酌み、お雑煮を食べ、お参りをして英気を養うことができました。

昨年はコロナの蔓延が収まらず、行動が制約された一年でしたが、それだけに色々な工夫がなされ、事業計画が着実に実行されたことは、皆さまのご尽力のたまものと心から感謝申し上げます。

今年は兎年です。干支のいわれはよく知りませんが、昔からの童話では、因幡の白兎とか、亀に追い抜かれる話とか、兎は余り良い役割を与えられていませんが、一方では、身を挺して人助けをしたことによって、神様から月に上って誰からも仰ぎ見られるようになったという美しい物語もあります。いずれにしても、生きている兎は下り坂より上り坂を得意としています。その兎にちなんで、今年は私たちが直面しているいくつか

の課題に向かって、皆で力を合わせ、元気よく果敢に挑戦して行く年にしたいと思います。よろしくお願ひします。なお、私の執務室には干支の動物たちの焼き物が一そろい飾ってあります。常滑の陶芸家が作った作品ですが、お時間があつたらいつでも見に来て下さい。今年の兎は、人参を抱えています。

今年の課題についてお話す前に、昨年の十大ニュースを振り返ってみます。既にお知らせ済みですから、要点のみを申し上げます。

《十大ニュース》

1, 未来への挑戦

- (1) センター・三公社一体化プロジェクトが始動。伊豆市新中学校整備(土地・インフラ技支)、裾野市JR岩波駅周辺整備(インフラ技支・土地)、伊豆SL亀石トイレ整備(道路・住宅)などで相互連携の具体的事例が現れたことを評価。

* 今日のPJ中間報告が楽しみ！

- (2) はまゆう大橋と箱根SLで電子マネー決済の試験運用開始。

* アイデアは良いが利用者が殆どいない。どうするか？

2, お客様サービスの充実

- (1) 高齢者テレフォン安心サービスの登録者が400人突破(13%増)。
- (2) スカイポート亀石にキッチンカー導入。

* 一人一挑戦の最優秀賞。他部門でも活用可能なアイデア！

3, 地域社会への貢献

- (1) 伊豆市新中学校整備。
- (2) 台風15号被災者に公営住宅を提供。

4, 健全経営の推進

- (1) R3年度決算で、土地4期連続、住宅19期連続黒字達成。
- (2) インフラ技術支援担当は、R3年度、過去最高の21件受注。

5, 計画的な事業推進

- (1) スカイラインで新グランドデザイン後期5カ年計画推進。
- (2) 地籍調査で、川根本町の新地区に着手、静岡市から初受注。

* 海岸地域にもっと増やすにはどうすればよいか！

6, 社会・経済の変化・様々なリスク・新型コロナウイルス感染症への対応

- (1) 県営住宅でコンクリート破片が落下、緊急外壁点検と修繕を実施。

* 危機管理の最重要課題として取り組む。初動に問題はあったが、以後の対応は適切だった。情報アンテナを高くして、悪い話は速く報告すること。安全第一、信用第一で！

(2) ウクライナ難民に公営住宅提供。

(3) 伊豆SL・箱根TP共通割引、高齢者ふれあい講座の再開。

7, 働き方改革の推進

(1) 在宅勤務、リモート会議の活用浸透。マジックコネクットの導入が業務業績表彰大賞を受賞。

* 育児にも威力発揮。コロナ禍は悪いことばかりではなかった。ただし、対面を大事にしよう！

(2) 産後パパ育休の創設など育休制度の拡充。

8, 業務の効率化・事務改善

(1) 外国人入居者向けに、QRコードを活用した案内を開始。

(2) 全公用車にドライブレコーダーを設置。

(3) 業務のデジタル化を推進。

9, 執行体制の整備・職員のスキルアップ

(1) 嘱託員・臨時職員の任用をセンターに一元化。

(2) インフラ技術支援担当に浜松駐在を新設。

- (3) 住宅の建築技術職員の採用を3年ぶりに実施。
- (4) 用地職員が、測量士補、地籍主任調査員資格を取得。
- (5) 一体化PJで、所属を越えた「現場で学ぶ研修会」を実施。

* 他部門の仕事への理解を深め、全体感を育てること。俳句に

「秋深き隣は何をする人ぞ」とある。隣人を思いやる古来の

日本人の良き情緒を大事にしよう。!

10, 戦略的広報の展開

- (1) センターホームページを5年ぶりに更新。
- (2) 伊豆SL60周年、箱根SL50周年を記念し写真・動画コンテストを実施。作品集、カレンダー作成、作品展の開催。
- (3) 一体化PJで、総合PR資料を作成、副市長・副町長会で活用。

* 誰もが、他部門のことを外部説明できるようになろう!

- (4) 公営住宅を一括表示する「しずおかだんち一ず」をホームページで紹介。

経営の原点は、今年についても次の三点で変わりません。機会あるごとに申し上げている通りです。

1, 「お客様とともに歩む」経営理念の堅持

2, 現場主義の徹底と健全経営の推進

3, センターの一体化促進

これらは三つとも深く関連しあっています。昨年の業務表彰や一人一挑戦表彰の候補になった案件は、全て現場のニーズに対応した解決策でした。「現場に立って考え行動する」という現場主義と、「現場で問題を解決する」能力を示す現場力が遺憾なく発揮されたケースばかりです。そうすればお客様に喜んで頂き、経営理念が絵空事ではなくなるのです。審査員もそうですが、私も深く感銘し心強く思いました。健全経営とは、決算の健全性、資産の健全性、信用の健全性を指すのですが、この中で一番大切なのは信用です。信用さえあれば、一時の金銭的な損失は必ず挽回できますが、信用を失ってはダメ、信用が健全経営の大元なのです。

今年は、変わらない経営の原点に立ち、環境の変化には柔軟かつ迅速に対応しながら、事業計画を実行する一年にしたいと思います。当面の重点課題は、次の5項目です。

1, センター・公社一体化のスピードアップ

2, 仕事量の確保とR5年度予算・中期計画の策定

3, 伊豆中央道・修善寺道路における予定償還期限後への抜

本策とETCX利用率の向上

4, 市町営住宅の管理受託の拡大

5, 新しい働き方の定着

センター・公社の一体化は、組織間の壁をなくし、相互に協力し、助け合い、組織の総合力を高め、それによって県民へのサービスを充実し、県民に喜んで頂くことによって、組織全体としての信用を高めることが目標です。私は、長い目で見れば、一体化プロジェクトというのは、センター・公社の生き残り戦略だと考えています。プロジェクトチームはもちろん関係の皆さんに全力を尽くして欲しいと願う所以です。

全国の公社その他で解散したりしているのはなぜだと思いませんか。みんな共通した理由があります。ひとつは、健全経営を維持できなくなったからです。赤字続き、不良資産を抱える、信用が失墜する、この3つが揃ったら組織はひとたまりもありません。健全経営の喪失が一番大きな原因です。もうひとつは、各県にもいくつか公社があるがお互い協力関係が成り立っていないのではないかと私は見えています。仕事が減ったところは、仕事のあるところの手伝いをしたらいいと思うのです。生き残りというか、お互いに成長を図っていく。最後は県民、お客様に対するサービスを高

めるということです。それがあれば決して組織は滅びないと私は思っています。自分さえよければということでは、全体は成立しない。そこが非常に大事な点で、特に幹部の皆さんには肝に銘じていただきたいと思っています。

ご承知のとおり、本年は静岡県が日中韓の文化指定都市となりました。「ふじのくにづくり支援センター」としても、その名に値するような貢献が出来れば良いと思っています。どうぞ皆さんも、一緒に考えて下さい。

終わりにあたり、いつも同じで恐縮ですが、ご家族ともども心身の健康に留意して下さい。そして、充実した一年と致しましょう。

“明るく、元気で、仲よく、厳しく！”